

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7年 8月 10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600088		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム向原		
所在地	〒739-1201 広島県安芸高田市向原町坂350番地 (電話) 0826-46-7022		
自己評価作成日	令和7年7月14日	評価結果市町受理日	令和7年9月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600088-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年7月31日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

1階が保育園、2階がグループホームという安芸高田市初の合築施設であり、園児たちとの季節行事の交流はもちろんだが、天気の良い日には利用者が園庭まで散歩に行き、園児たちとの触れ合いを楽しんだり、また、日常的な関わり、触れ合いが持てる形での交流に力を入れている。グループホームの設えにおいても、施設感を感じさせないように意識し、利用者自身が「自分の家」として生活していただけるように、生活空間や環境づくりの充実に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人は、法人理念「私たちのあゆみ」「私たちの実践」「私たちのこころ」を詳細に記したハンドブックを全職員に配布し、職員は自分自身の手引きとして活用している。事業所独自の5つの目標を設定し、目標に沿った個人目標を提示し日々実践に向け取り組んでいる。1階は保育園、2階がグループホームとなっていてテラスに出れば園児の声や運動場で遊ぶ園児の姿を眺めることができる。運動会の催しに参加したり、園児が少い土曜日は園児とふれあい、世代間交流を日常的に行っている。運営推進会議に殆どの利用者が参加している。スライド放映で日常の様子を鑑賞し、事業所の状況報告やヒヤリハット報告を行い、不参加の家族には議事録を送付し情報を共有している。各ユニット会議やユニット合同会議、申し送り時や個人面談等で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、サービスの向上や資質の向上に活かす取り組みをしている。

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念をもとに全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、本人の出来ること(役割)や好きなことを見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプラン作成を、共有している。	法人理念をもとに事業所はより具体的に5つのケア目標を定め、統一したケアに取り組んでいる。職員は目標に沿った個人目標を設定し、年2回の個人面談や随時の話し合いで検証・振り返りを行っている。各自法人理念「歩・実・心」の手帳を介護する上で手引きとして所持し、研修の時等にも持参している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	散歩等を通し地域の方と接点がもてるよう配慮したり等、日常的なかかわりから情報収集を行っている。	階下の保育園の避難訓練の参加や運動会の催しに参加し、日常的に世代を超えた交流をしている。傾聴ボランティア、フラワーアレンジメント教室、外部から音楽療法士等との交流をしている。月2回の内1回は市主催のいきいき元気教室に参加し、地域の方との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年、地域行事の情報収集をもとに参加し、事業所の認知、理解を深められるように活動している。運営推進会議参加者には広報誌で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年、年4回定期的に実施している。利用者の状況等をスライド写真で分かりやすく報告し意見情報交換、サービスの質の向上に努めている。家族、行政担当者や民生委員、地域傾聴ボランティアや音楽療法の先生にも参加して頂いた。	市保健医療課、地域包括支援センター職員、傾聴ボランティア、音楽療法士、利用者、家族等の参加で開催している。現状報告、行事報告、事故報告、ヒヤリハット報告と今後に向けた対策案を報告している。案内状を事前に送付し意見欄を設けている。欠席者には議事録と広報誌を送付し情報の共有をしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取組み等の情報交換を行っており連携、質の向上に努めている。	介護保険申請時には市担当課に出向き、時には介護計画等の相談をしている。生活保護担当者の毎月の訪問時に状況報告をしている。市が主催する研修に受講したい職員は参加する等、協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>両ユニット共有テラスは開放し自由に活動していただいている。身体拘束については月に一回、委員会を設け緊急時やむを得ない対応等話し合いを行い、家族へ同意書を作成し、報告をしている。現在対象となる方はおらず、職員に見守られながら自由に活動されている。身体拘束についてスピーチロックを含めた施設内研修を行っている。</p>	<p>毎月身体拘束廃止委員会を開催している。研修やミーティングの時、身体拘束について周知し、現状を把握し意識づけている。利用者への言葉で身体拘束が見受けられる時には、職員を交代し、スピーチロックについて話をし、具体的に示す事で言葉による拘束をしないケアに努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常から利用者の小さな変化にも気づける力が養えるよう職員間で話し合いを行っている。ストレスをためないように心掛け、また、平常心が保てない状況にある場合は対応職員が代わるよう話し合い、連携を図っている。施設内研修として虐待防止の研修を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について、基本的な研修を行い、関連資料を閲覧できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居時には面接で、十分な説明を行い、納得、同意を得られるようにしている。また、利用中も不安なく生活できるよう、必要に応じて説明できるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録と共に、広報誌を郵送し利用者の活動、表情等の様子をお伝えできるよう配慮している。</p>	<p>電話や面会時に要望や意見等を聴取している。運営推進会議の案内状や議事録、広報誌を送付し日頃の様子を伝え意見を傾聴している。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後、面会についての意見があり、面会時間や外出、外泊の緩和に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催。また両ユニット合同によるグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。更に年2回ひとりひとりの面談を実施し細やかな意見を聞く機会も設けている。	毎月各ユニット会議、月1回のユニット合同会議で職員の意見や提案を聞いている。年2回、管理者との個人面談で個人目標の振り返りや時には、随時で業務についての意見を聞く機会を設けている。備品購入やシフトについての意見等、改善に繋がるよう尽力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望時には雇用管理者との個別面談が受けられるよう、柔軟な体制が整っており、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。また有給休暇を取得しやすいよう、職員間のコミュニケーションの充実を図り、併せてストレス対策をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修の参加や認知症介護実践者研修等の外部研修に参加している。施設内研修として身体拘束等の研修を行った。ケアプランやアセスメント実施を通し各担当職員に個別指導している。年一回の法人主催のベストサービスアワードについて審査員として参加したり、会場に行けない職員にはリモートによる中継も実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年、関連事業所または地域の行事や研修会等に積極的に参加し、交流・意見交換を通して業務改善サービスの質の向上に努めている。また、法人内の介護部会に参加し、職員同士の情報交換の場を得ている。法人内他施設と合同で研修を実施している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人が納得されるまで傾聴し、思いを聞き取る努力をしている。毎日、モニタリングを行い、問題解決に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族の思いを知る機会を設け、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるように努めている。アセスメントシートを作成し、入所前の生活に近い環境になるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>これまでの生活歴や大切にしているものを理解し、専門性を活かした自立支援に努めている。家事など本人に合った役割を提供している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日々の生活や生活歴を通じて本人の得意分野等を見出し、共に楽しく行えるよう努めている。病院受診は家族の協力を得て行っている。希望時には電話で話をさせていただいたり、面会や外出、外食も行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来所に対しても明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また地域のお祭りや外出、個別レクリエーション等を通じて馴染みの人や場所に関われるよう努めている。</p>	<p>利用者とは話しやすい環境で、会話の中から馴染みの人や場を傾聴している。昔からの知人の来訪や公用車を使用して外出したり、家族の協力で墓参りや馴染みの美容院に出かけている。利用開始後に新しく訪問美容の方と馴染みになる等、人や場との関係が途切れないよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活から馴染みの利用者を見つけただけのような関わりを心がけている。また、より一層深い関係や新たな関わりが持てるよう利用者間で会話が楽しめている際は、無理に割り込まないなど、配慮している。楽しんで頂ける行事の計画や支援に努めている。利用者同士のトラブルを未然に防げるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了前には退所後の受け入れ先等の相談をし、関係機関と連携を密に図りながら、希望に添えるようにしている。その後の経過がわかるよう情報交換をし、これまでの関係を大切にできるようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から意識して言動や表情等から利用者の思いを汲み取るような関わりを持つようにし、また利用者や家族から一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向を把握しながら、できるだけ本人の思いを尊重できるように努めている。	日頃の会話の中から思いや要望の把握に努めている。表出の難しい利用者は利用開始前の情報や生活歴、家族から聴取し、大切にしている物や拘りを把握し、分かりやすい言葉かけで表情や言動から汲み取り、申し送りノートや介護記録に記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会に来られた方、また施設関係者からこれまでの生活の様子等のお話を聞かせていただき、グループホームでの生活に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝のバイタルチェック時の数値、体操の際の表情や動きなどの様子観察をし、日々、利用者の生活リズムの把握に努めている。変化のあった際は記録に残し、職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>適切な処遇が行えるよう、毎月モニタリングを実施、記録している。必要に応じて家族や主治医に報告、相談や話し合いの場を設け、本人の強みが活かされるよう介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の出来る事を強みに活かす介護計画を作成している。申し送り時や日々の気付きを記録し、モニタリングは毎月行い意見を集約し、アセスメントを行っている。半年ごとに見直しをしている。状況に変化があればその都度家族や医師、多職種の助言や提案を反映した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録と合わせて、担当者がより細やかな気付きを記録し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、どうすれば本人や家族のニーズに対応できるか、また満足していただけるように、その都度職員間で話し合い、柔軟な対応が出来るように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>例年、地域の行事に進んで参加したり、傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法(月1回)やチェアヨガ(月2回)の開催も含めて、利用者が生き生きと豊かで楽しい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人及び家族の希望のかかりつけ医で受診ができるよう、必要に応じて付き添いや往診の依頼等を支援している。協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。</p>	<p>契約時希望のかかりつけ医の確認をしている。従来のかかりつけ医受診は基本家族対応としている。必要に応じて事業所が受診支援をしている。協力医療機関のかかりつけ医希望の方は月2回の訪問診療を行っている。医療機関と連携を図り適切な医療の受診支援をしている。必要時、訪問歯科の受診支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし、必要に応じて受診ができるように対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居前に終末期ケアを実施していないことの説明を行っている。入居後において事業所で出来る事を主治医に報告し今後予測出来る事柄を本人、家族に十分に説明しながら方針を共有し重度化した場合は安心して生活できる場の提供相談を随時行っている。介護看護サマリーの情報交換を行い状況把握に努めている。	契約時事業所の方針や看取り支援は行っていない事を説明し確認を行い、契約締結をしている。利用者が移動に常時車いすを使用する様になったり、介護3で身体機能の低下が見られる様になった場合は、段階を踏みながら利用者、家族等に説明し、安心出来る施設等への転院相談を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AED(自動体外式除細動器)を設置し、急変時に備えている。また、緊急時における救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。多職種で連携を図り、感染予防の知識を高めている。年1回救急救命講習を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急連絡網を作成し、毎月実施する保育園の避難訓練時に時々参加している。夜間の災害を想定したマニュアルを作成しているが夜間想定訓練はできていない。また、保育園が市との協定にて避難場所となっており、災害時情報の共有を図ることが可能である。3日分の非常食を備蓄している。	階下の保育園が毎月行う避難訓練に参加し、消火器の操作方法や避難経路確認等利用者と共に実施している。緊急時連絡網や夜間を想定したマニュアルは作成している。夜間想定訓練は実施できていない。BCP(事業継続計画)の話し合いや備蓄品(水や食料品等)3日分倉庫に保管している。	夜間想定事業所独自の訓練が実施できていない。運営推進会議開催時に夜間想定訓練を企画する等、参加者からの意見や改善点等意見交換を行い、災害時の地域協力体制の仕組みづくりを期待します。

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮し、業務上やむを得ない場合、本人の了承を得る等を行い、又、記録の取り扱いについても慎重に行っている。入浴や排泄介助の際は出来る限り同性職員が行うよう配慮している。	研修や毎月のユニット会議で一人ひとりの対応や関わり方を話し合い、議事録で全職員が周知し意識づけをしている。入浴時や排泄介助等、人格を尊重し誇りやプライバシー確保に配慮している。重要書類等出し入れを記録し鍵のかかる収納庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮している。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にしている。表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿ってお化粧をしたりと身だしなみやおしゃれができるように支援している。外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。また、地域の美容院を利用希望している利用者は家族と連携し個別対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をしている。食器においても陶器を使用し、目で見て楽しめる食事の時間を提供している。嗜好や食事量を把握し、食べ切れる量や、おかわり等が出来るよう工夫している。好みについても本人に嗜好調査を行っている。	昼食と夕食は保育園の厨房の献立を盛り付け、配膳して提供している。朝食は事業所の台所で職員が調理し提供している。年2回の嗜好調査で把握した、利用者が食べたい物、食べやすい物や各人に合わせた食事量を提供している。月1回おやつ会や誕生日は職員と共に外食をする支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日中、一人ひとりの体調をみながら、本人の希望する量にあわせて、提供している。又、夜間も自由に水分補給していただけるよう、一人ひとりに提供したり、介助が必要な方にはトイレ通いのタイミングなどで水分補給をしていただいている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後一人ひとりに口腔ケアをしてもらえるように言葉をかけたり、出来るだけ実施していただけるように支援している。就寝前は介助または見守りで口腔ケアを実施している。義歯の不具合等を家族に報告し、歯科受診をして頂けるように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>自立、一部介助等、個々に応じて支援している。排泄に不安がある方には安心して行えるように配慮し、自立に向けた支援を個々に応じて行っている。必要に応じて排便チェック表を作成し、紙パンツやパットの種類や使用を検討している。</p>	<p>排泄パターンを把握し、個々の対応に応じた声掛け誘導や介助方法でトイレで座位姿勢での自立支援に取り組んでいる。リハビリパンツから布パンツに移行になる等改善が見られ、個々に応じた衛生用品を使用している。排便チェック表を作成し、水分摂取や適度な運動量で自然排便に繋がるよう取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>適度な運動や水分補給で毎日、予防に努めている。排便チェック表を活用し、排便困難時には処方薬を服用していただけるよう医療機関との連携も図っている。体操時間を活用し腹部マッサージや腹式呼吸等を試み、自然な排便を促している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴のタイミングは出来る限り本人の希望に添えるようにしている。声掛け誘導から入浴後の水分補給まで同じ職員が対応することでコミュニケーションを図りながら入浴を楽しんでいただいている。</p>	<p>3日に1回の入浴支援を基本としている。入浴担当者が声掛け誘導から入浴後の水分補給までを行い、ゆったりとした気分でのコミュニケーションを図りながら入浴支援をしている。入浴剤や好みのボディソープを使用する利用者もいる等、入浴を楽しむ支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日々、利用者の生活リズムを尊重し、一人ひとりの状態を見ながら、ゆったりとした雰囲気の中で過ごしていただけるように支援している。休息時には、その妨げにならないよう室温や寝具の調整に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方通り服薬していただき、確認している。症状の出方等、職員間で連携共有し、必要に応じて家族への相談、報告をし、医師、薬剤師とも連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	本人の体調を考慮したうえで、できる限り、食事の準備(とりわけ作業)やフロアの掃き掃除、食卓拭きや洗濯畳み等を行い「やりがい・役割」を見つけて頂けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や日用品の買い物等、日常的に行ったり、希望を伺って、足を延ばした外出支援、季節や体調を考慮しながら、気分転換ドライブや散歩が出来るよう計画している。誕生日のお祝いとして職員と一緒に外出、外食できる機会を作っている。	天気の良い日は散歩や読書好きな利用者は近隣の生涯学習センターみらいの図書館へ職員と共に出かけている。気候や体調を見ながらドライブや花田植え見学に外出し、気分転換や季節を感じる支援をしている。誕生日には担当職員と喫茶店に出かけ好きな物を注文し、一緒に食事し、誕生日のお祝いをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の希望がある時は、必要に応じて施設で立替金を準備し、一緒に買い物外出できる機会を設け、家族の理解を得られるようにしていたが、コロナ禍の現状をふまえ、買い物は家族や職員が支援している。		

自己評価	外部評価	項目(かたくりユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人や家族の希望があれば支援を行っている。また、入所直後は不安な思いを家族に聞いてもらうため、緊急以外の用件で電話させて頂くことがある旨を家族に了承を得ている。携帯電話を所持されている方へのフォローや、又手紙を書かれる方へのポスト投函の援助を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	和を意識した設え。穏やかに過ごせる空間づくりを心がけている。リビングコーナーを自由に利用していただけるような配置にしている。又、夜間の消灯は就寝のタイミングに合わせる等、共有スペースと自室間の移動で心地よく生活リズムを確保できるよう工夫し居場所作りを図っている。	共有スペースは和・洋とユニット毎に異なっている。各ユニットは工夫をこらした季節を感じる雰囲気作りをしている。午前中ラジオ体操やリズム体操で利用者の体調を把握している。フロア内は職員が清掃をし、テーブル拭き等は利用者がリハビリとして行っている。和やかな雰囲気で過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	馴染みの方や気の合った方とゆっくり過ごせるようなテーブル配置や自由に過ごしていただきやすいリビングコーナーの確保をしている。又、行事等を楽しんでいただけるよう、パーティー式の席の配置を変更したりと、交流できるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものを持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。	居室は洗面台、エアコン、ダンス、クローゼット、ベッドが設置している。自宅で慣れ親しんだ物や大切にしている物等家族と相談して持参している。仏壇、家族写真、テレビ、ぬいぐるみや手作りのパッチワーク等に囲まれ、穏やかな環境で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。また、カレンダーや時計を随所に配置し、ご自身のペースで活動して頂けるように工夫している。		

V アウトカム項目(かたくりユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を基に全職員でケアの具体的な目標策定と意見の統一を図っている。家庭的な雰囲気の中で、本人の出来ること(役割)や好きなことを見つけていただき、地域との関わりを踏まえたプラン作成、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	隣接する生涯学習センターみらいの貸し出し図書を利用したり、職員と一緒に散歩をする等、どの時々で出会った地域の方と日常的なかかわりを通し情報収集を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年、地域行事の情報収集を基に参加し事業所の認知、理解を深められるように活動している。運営推進会議参加者には広報誌で発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年4回定期的に実施。利用者の状況等をスライド写真で分かりやすく報告し意見情報交換、サービスの質の向上に努めている。利用者、家族、行政担当者や民生委員、地域傾聴ボランティアや音楽療法先生が参加している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者とは運営推進会議を通じて事業所の実績やサービスの取組み等の情報交換を行っており連携、質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>両ユニット共有テラスは開放し自由に活動していただいている。身体拘束については月に一回、委員会を設け緊急時ややむを得ない対応等話し合いを行い家族への同意書面を作成報告をしている。スピーチロックを含めた身体拘束について施設内研修を行った。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日常から利用者の小さな変化にも気づける力が養えるよう職員間で話し合いを行っている。ストレスをためないよう心掛け、また、平常心が保てない状況にある場合は対応職員が代わるよう話し合い、連携を図っている。施設内研修として虐待防止の研修を行った。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護について、基本的な研修を行い、関連資料を閲覧できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退所時には面接で、十分な説明を行い、納得、同意を得られるようにしている。また、利用中も不安なく生活できるよう、必要に応じて説明できるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を定期的で開催し、利用者や家族等からの意見を聞く機会を設けている。参加できない方には、会議の議事録と共に、広報誌を郵送し利用者の活動、表情等の様子をお伝えできるよう配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットで月1回以上、ユニット会議を開催。また両ユニット合同によるグループホーム会議を月1回開催し、意見や情報交換や報告の場を設け、サービス向上に反映させている。更に年2回ひとりひとりの面談を実施し細やかな意見を聞く機会も設けている。必要に応じ随時体制を整えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望時には雇用管理者との個別面談が受けられるよう、柔軟な体制が整っており、就労状況の把握、人事希望により働きやすさの向上に努めている。また有給休暇を取得しやすきよう、職員間のコミュニケーションの充実を図り、併せてストレス対策をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内研修の参加や認知症介護者実践研修等の外部研修の参加の機会を設けている。ケアプランやアセスメント実施を通し各担当職員に個別指導している。年一回の法人主催のベストサービスアワードに参加し、参加できない職員もリモート視聴の場を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連事業所または地域の行事や研修会等に積極的に参加し交流・意見交換を通して、業務改善サービスの質の向上に努めている。また、法人内の介護部会に参加し職員同士の情報交換の場を得ている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も本人が納得されるまで傾聴し、思いを聞き取る努力をしている。毎日、モニタリングを行い、問題解決に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用開始前に本人と家族を含めた事前面接を行い、要望・不安な点等を聞く機会を設けている。利用開始後も来所時に利用者の様子を伝えたり、遠方の方には電話での状況報告等を行っている。また運営推進会議を通じて家族も思いを知る機会を設け、信頼関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>専門職が連携を取りながら、本人や家族と情報交換を行い、本人の希望に添えるように努めている。アセスメントシートを作成し、入所前の生活に近い環境になるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>これまでの生活歴や大切にしているものを理解し専門性を活かした自立支援に努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>運営推進会議で定期的な利用者の近況報告を行っている。利用者、家族、職員で協力し利用者を支えあう関係作りに努めている。家族状況を理解し、電話の対応もしていけるよう工夫している。面会や外出、外食、外泊も行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>施設関係者以外の来園に対しても明るく挨拶をし、いつでも来ていただけるような雰囲気作りに努めている。また地域のお祭りや外出、個別レクリエーション等を通じて馴染みの人や場所に関わるれるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日々の生活や行事、外出等を通してお互い助け合いながら生活していただいている。ボードゲームや風船バレー等のレクリエーションにも工夫し、利用者同士の関わり合う機会が多く持てるようにしている。また、食堂においてコミュニケーションが取りやすい雰囲気作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了前には退所後の受け入れ先等の相談をし、関係機関と連携を密に図りながら、希望に添えるようにしている。その後の経過がわかるよう情報交換をし、これまでの関係を大切にできるようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から関わりや会話・表情からの気づきを大切にし、本人・利用者同士との何気ない会話から思いや暮らしの希望、意向の把握に努め、家族と情報共有し、利用者本位の生活が送れるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者、家族、面会の人たちからこれまでの生活等のお話を聞き、馴染みの暮らし方、生活環境に近づくように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝、体操参加を促し、その際の動作表情等、様子観察を行っている。その日の状態に応じて、本人に合った過ごし方ができるよう、情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日頃の様子や気づきを記録に残し、月1回開催のユニット会議にて処遇を行い、朝の申し送り等にて意見交換、情報共有をしている。また、カンファレンスも実施し、利用者、家族の意見を聞き、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別にケース記録を作成し、日々の様子等の記録を行っている。排便、入浴、シーツ交換等の表にも記録をとり、職員間で情報を共有しながら実践の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>既存のサービスに捉われないことなく、本人や家族に満足していただけるよう検討をし、柔軟に対応している。生活リハビリのみにとらわれず、利用者の希望に応じて、協力医療機関と連携し、リハビリ通院も行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の行事に進んで参加したり、傾聴ボランティアの受け入れ等、地域の協力を得ている。また音楽療法(月1回)やチェアヨガ(月2回)の開催も含めて、利用者が生き生きと豊かで楽しい生活ができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関が主治医になっている利用者には、月2回往診をして頂き、連携を図っている。その他のかかりつけ医を受診されている方は基本、家族対応でお願いをしている。必要に応じて介護職員が付き添いを行い、適切な医療が受けられるように支援している。医療機関と連携を密にし、希望に応じてリハビリ通院も実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調の変化や気づき等があれば、直ちに家族、かかりつけ医に報告、相談をし、必要に応じて受診ができるように対応する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療機関と情報交換を行い、連携を密に図っている。退院においては入院中に状況確認を行い、受け入れ体制を整える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所前に終末期ケアを実施していないことの説明を行っている。入所後において事業所で出来る事を主治医に報告し今後予測出来る事柄を本人、家族に十分に説明しながら方針を共有し重度化した場合は安心して生活できる場の提供相談を随時行っている。介護看護サマリーの情報交換を行い状況把握に努めた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	AEDを設置し、急変時に備えている。また、緊急時における救急搬送を円滑に行えるよう、エレベーター作動(ストレッチャー対応)の訓練を行っている。多職種で連携を図り感染予防の知識を高めている。年1回救急救命講習を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急連絡網を作成し、毎月実施する保育園の避難訓練時に時々参加している。夜間の災害を想定したマニュアルを作成も訓練はできていない。また、保育園が市との協定にて避難場所となっており、災害時情報の共有を図ることが可能である。3日分の非常食を備蓄している。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう、入浴や排泄介助の際は出来る限り同性職員が行うよう配慮している。業務上やむを得ない場合、本人の了承を得る等を行い、又、記録の取り扱いについても慎重に行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分の思いや希望が表出しやすい雰囲気作りを大切にし、職員との信頼関係が築けるように配慮する。また、利用者の思いに寄り添うような関わりも大切にする。表出が困難な方には馴染みの職員が表情の変化等を通して思いを汲み取ったり、ゆったり傾聴できる時間を持つようにする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事等の参加を無理強いせず、気分が乗らない方には自分のペースで過ごしていただけるよう、思いを聞き出し、支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿ってお化粧をしたりと身だしなみやおしゃれができるように支援している。外部の理髪業者に依頼(毎月1回)をして、希望者には施設内で散髪を実施している。また、地域の美容院を利用希望している利用者は家族と連携し個別対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや配膳を職員と一緒にし、楽しい雰囲気の中で共に食事をしている。食器においても陶器を使用し、目で見て楽しめる食事の時間を提供している。食事量を把握し、好みに関しても本人に嗜好調査を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	一人ひとりの日々の体調をみながら、本 人の希望する量にあわせて、提供してい る。水分補給についても、個々の要望に 応じて好みの飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ひとりに口腔ケアをしてもら えるように言葉をかけたり、出来るだけ 実施していただけるように支援してい る。就寝前は介助または見守りで口腔ケ アを実施している。義歯の不具合等を家 族に報告し、歯科受診をしていただけ るよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	自立、一部介助等、個々に応じた支援し ている。排泄に不安がある方には安心し て行えるように配慮し、必要に応じて声 掛けや誘導等を行い、自立に向けた支 援を個々に応じた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日ラジオ体操、リハビリ体操の運動を 行い、水分補給にも気をつけている。ま た、本人へ確認をしたり、状態を見なが ら個々に応じたお腹のマッサージを実施 している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴のタイミングは出来る限り本人の希 望に添えるようにしている。声掛け誘 導から入浴後の水分補給まで同じ職員が 対応することでコミュニケーションを図 りながら入浴を楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の利用者の生活リズムを尊重しながら、日々ゆったりと過ごしていただけるように支援している。夕食後、ゆっくりと利用者間雑談をされたり、自室やフロアにてテレビを見たりと本人のペースで過ごされている。就寝準備の際、穏やかな声掛けを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方通り服薬していただき、確認している。また状態によっては職員で話し合い、必要に応じてご家族への相談、報告をし、医師、薬剤師とも連携を図っている。下剤に関しては本人の排便チェックをし、医師、薬剤師の指導の下、服用、時間、量を決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々、本人の思いを考慮し、できる限り、好きな事ややってみたい事、やりがい等を見出していいただけるように支援している。具体的には、食事の配膳準備や始末、フローア清掃、洗濯物干し、植物の水やり、ドライブ等がある。その日の体調の変化に応じて、臨機応変に支援している。輪投げ、玉入れなど体を動かし気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や隣接する生涯学習センターみらいの図書館に職員と一緒にいる。また、趣味や食事等のため、ご家族や職員と一緒に外出も行っている。季節や体調を考慮しながら、気分転換ドライブが出来るよう検討し計画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の希望がある時は、必要に応じて施設で立替金を準備し、一緒に買い物外出できる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目(しょうぶユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族の希望があれば支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>洋を意識した設え。共用空間は利用者と共に清掃を行い、清潔を保つようにしている。必要に応じて、テレビの音量やエアコンの風量などを調節し共有スペースでの家庭的な雰囲気づくりと、利用者にとって居心地のよい場所になるよう心がけている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>食事や談話、テレビを楽しむスペース等を設けている。フロアにはソファを設置し、利用者同士で会話も楽しめる場を設けている。また、廊下にはベンチチェアを設置しており、独りで過ごせる場を確保している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は本人や家族と相談しながら、入居前に使用していた馴染みのものや趣味で使われる物を持ち込んでいただく等して本人にとって居心地のよい部屋となるよう工夫、協力している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>生活上の注意点、趣味等の情報を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。</p>		

V アウトカム項目(しょうぶユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム向原

作成日 令和7年9月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定避難訓練の実施が出来ていない。	夜間想定訓練を年一回実施する。	グループホーム職員でマニュアルを元に訓練内容を確認する。日程などは消防署等とも連携を取る。実施した訓練内容のフィードバックを行い、マニュアルの更新を行う。	7ヶ月
2	35	BCP訓練の実施。	BCP(災害対策)の訓練を実施する。	まずは机上訓練から実施していく。	7ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。